

(ア)いろはカップ応援団事業(小学校25m泳力向上推進事業)

1 いろはカップ応援団事業とは

(1)事業目的

小学校課程を修了するまでに、すべての児童が泳げるようになることをめざし水泳授業にインストラクター派遣する制度である。

<参考>

小学校学習指導要領解説体育編には、小学校6年生の泳力に関し次のように記載されている。

第5学年・第6学年の目標及び内容

自己の能力に適した課題をもち、クロール及び平泳ぎの技能を身に付けて続けて長く泳ぐことができるようにする。

ア クロール

〔例示〕

・呼吸をしながら25～50m程度のクロール

イ 平泳ぎ

〔例示〕

・呼吸をしながら25～50m程度の平泳ぎ

(2)経緯

平成13年度

宗岡第三小学校ファミリープールの廃止に伴い、宗岡第二小学校と宗岡第三小学校の二校において、アクアティックプログラム(水泳インストラクターを日本フィンスイミング協会から派遣する)をパイロット事業として実施

平成14年度

市内の全小学校8校において、いろはカップ応援団事業として水泳指導インストラクター派遣事業を実施

平成15年度

予算を学校魅力化予算に組み入れ、各学校の計画に基づいて実施

(3)事業の概要(平成16年度)

学校魅力化予算の事業として、各学校の計画に基づき水泳インストラクターを各学校ごとに採用し、志木第四小学校を除く7小学校で実施した。どの学校もインストラクターは1日あたり1人で、のべ、155日(平均すると1校22,1日)の指導を受けている。

指導に関しては各学校の水泳指導の計画に基づき行われているが、水泳技能の到達度別に集団を編成し、その1集団をインストラクターが指導するという形態が最も多く、効果を上げている。

2 志木市の小学生はどのくらい泳げるようになったのか

(1)水泳能力に関する調査

前年度と同様、埼玉県が5年ごとに実施している水泳能力調査に準拠して、第4学年から第6学年までの全児童を対象として実施した。(平成16年6月から9月実施)

(2)調査結果からわかること

・6年生の泳力が緩やかに向上している。(男子クロールでは91%)特に平泳ぎに関しては、確実に向上しており、インストラクターによる平泳ぎの成果が表れていると考えられる。

・泳力5m未満の児童の割合が、著しく低下している。(クロールでは1%台、平泳ぎでは4%台)これまで指導が行き届かなかった児童への指導がインストラクターの派遣により可能となった効果と考えられる。

・クロールで50m以上泳げる児童の割合が平均で全体の半数を越えている。25mを泳げる技能の習得を達成した児童には次の課題の達成が必要であり、インストラクターの派遣により指導段階が細分化されたため、水泳を得意とする児童もめあてのある学習指導がなされているためと考えられる。

3 今後のいろはカッパ応援団事業の方向性

本事業開始3年が経過し、安定した水泳指導がなされている。市内8小学校での水泳指導の効果が上がり、本年度市内で初めて6年生クロールの調査で25mの泳力達成率100%となった学校もあった。インストラクターに関しても、いずれの学校も毎年同じ方に依頼する傾向にあり、そのことにより継続したチームティーチング指導が可能となっている。

今後、本事業は、学校魅力化推進事業の一環として、各学校が主体的に実施していく。そこで、徹底した習熟度別指導とインストラクターの高度技術による個別指導の確立を今後は共同指導体制をとる学校と教員のための体制で指導する学校と現れてくることが望ましいと考える。